

～環境学館いずみボランティアスタッフによる「いずみガイド」～

## 6月のテキゴト

環境学館いずみ運営ボランティアへ新たに参加した仲間の自己紹介です！

初めまして、大山順子と申します。

人生100年の時代になり、坂戸市で生まれ育ち私の人生が半世紀を迎えようとしています。「残されている人生のほんの数時間くらい、体が健康な時に感謝の気持ちを行動で表すにはボランティア活動だな！」とそんな発想から参加を決意しました。

広報でみた環境学館いずみのボランティアがどんな活動をしているのか？興味を持っていた「えひめAI」の講座を受講しました。何か自然とか地球とかに優しいことをすると嬉しくなり、広げたくもなる。例えば、昔の衣食住は自然と手間・暇・愛情がかかり育てられるから大切に用いる。地球の寿命が数百年と迫りSDGsも耳にする機会が増え、意識が大きく変化してきています。自分の生活を豊かにするには自分の命を大切にする。それは、地球環境を大切にしなければならない。

よし！環境学館いずみで私の意識改革。はじめの一步！！これから皆さん宜しくお願いします。

初めまして、6月からいずみ運営ボランティアに携わることになりました、千葉龍一郎と申します。

私は現在、大学3年生として学生生活を送っており、市内で一人暮らしをしています。出身地は宮城県の登米市という所で、現在放送中の朝ドラ「おかえりモネ」の舞台地となっています。

ボランティアに参加した理由は、小さい頃から自然環境に興味があったからです。私の地元・登米市の隣にある栗原市にサンクチュアリセンターがあり、小学生の頃、そこでの自然体験講座に参加したことをきっかけに自然環境に興味を持ちました。

そのサンクチュアリセンターの周辺には、伊豆沼・内沼というラムサール条約湿地に登録されている湖沼があり、非常に自然豊かな場所となっています。その自然の中で体験した講座は、水辺の生き物採集と観察会、昆虫採集と標本づくり、ガンの飛び立ち観察会の3つでした。これらの自然体験を通して、自然や生き物と触れ合うことの楽しさや、生命の大切さを、子どもながらに感じました。

そして、現在でも自然環境に興味を持っており、自由に時間を使える大学生のうちに、ボランティア活動を通して自然環境について学んでいきたいと思っています。

また、ボランティア活動を通して社会経験を積みたいと思ったからです。栗原市のサンクチュアリセンターの方々が、私を含めた講座参加者に対して、自然を楽しく体験できるような環境づくりをしてくれたように、今度は私が、講座やイベントに参加される方々が有意義な時間を過ごすためのサポートをしていきたいと思っています。

ボランティア活動や地域の方々と触れ合うことは、大学の講義では得られない学びがあるため、そういった社会経験の中で自分自身の考えを深めていきたいです。

いずみ運営ボランティアのスタッフとして、今後活動していきますので、皆さんよろしく申し上げます。